

B-20 不織布の被服材料への応用に関する研究 -着用時の変形と破損-
 大阪市大家政 林田 氏美子 ○ 広田 輝次

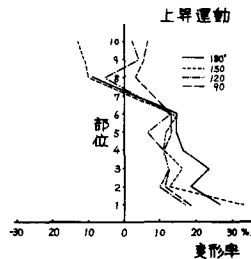


Fig 1

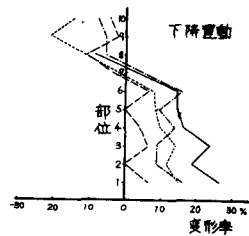


Fig 2

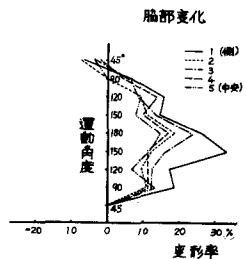


Fig 3

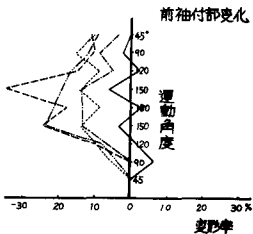


Fig 4

目的 不織布を用いた非耐久性衣料の実用性を着用時の変形と破損についてたしかめ、材料弾性とデザインの撰択について検討する。

方法 1. 上半身各部の変形の測定：伸縮性の大きい編物の肌着にあらかじめ等間隔の格子状標線をしるし、腕の体側方向の上下運動に伴う変形を写真撮影により測定した。2. 不織布衣料：肌着について試験を行い、羊袖、前開きのデザインをえらび、縫製はできるだけ簡単なものとした。着用試験を行い破損の進行を主眼において各測定を行った。

結果 1. 変形量を腕のつけ根を中心として1→10.の10個の部位について、また腕の上下運動の位置は垂直方向との角度45°→180°および180°→45°の面で測定した結果をFig1～Fig4に示す。2. 着用による損傷は不織布の切斷伸度が低いため胸部で多く起る。この欠点を補うデザインの改良を試み、成果をあげるこゝができた。